

テーマ2

少子高齢社会への対応

子育て施策の推進

- ◆ 子育て世代支援策の展開
- ◆ 学校教育の充実

健康・生きがいづくり

- ◆ 健康づくりの推進
- ◆ 高齢者福祉の充実
- ◆ 生涯学習の充実とスポーツの振興

定住の促進

- ◆ 若年層を中心とした定住支援
- ◆ イメージアップ施策の推進



子育て世代支援策の展開

ICTを活用した保育システムの導入

- 令和2年1月、学校跡地に「市立井野なないろ保育所・地域子育て支援センター」が開所しました。公立では県内初となるICTを活用した保育システムを導入。現在は、すべての公立保育所にICT導入を拡大し、ICカードを利用した出欠連絡や引き渡し時間の自動記録、さらに今般の新型コロナウイルス感染症拡大防止に役立てています。
- 民間施設も続々リニューアル
市は安定した施設運営と継続的な子育て支援サービス提供のために、施設整備費用の一部を助成しています。民間施設もリニューアルされ、特色ある保育サービスを提供。ICTの導入で、保護者の負担を軽減し、保育士の就労環境と保育の質が向上しています。



竣工式・施設の
紹介動画



保育所完成までの様子



令和2年に開所した井野なないろ保育所



ICT保育システムを利用する保護者



子育て世代支援策の展開

専門相談員を配置「地域子育て支援センター」

子育てに関する相談などを身近な場所で気軽に受けられるよう、専門職員を各所に配置し、保護者に寄り添った子育て支援に取り組んでいます。



子育てコーディネーターによる相談の様子

●子育てコーディネーター

市内4箇所の地域子育て支援センターで、育児や子どもの発達に不安を抱える保護者の相談に応じ、適切な専門機関等につなげるなどの支援を行います。また、子育てに関するイベント情報をLINEで配信します。

●保育コンシェルジュ

子育て支援課窓口で保育施設等の子育て関連施設や利用できるサービスの情報提供を行います。

◆各地域子育て支援センター

- 白山（取手市白山5-16-8）
- 井野なないろ（取手市井野3-15-1）
- 藤代（取手市藤代700）
- 戸頭（取手市戸頭6-30-1）

●子ども家庭総合支援拠点（家庭児童相談室）

子ども家庭支援員や虐待対応専門員が18歳未満の子どもに関する相談に応じ、必要時には関係機関と連携し対応します。



子育て世代支援策の展開

ぬくもり医療支援事業

- 取手市では、子育て世代を支援する事業として、茨城県の医療福祉費支給制度（小児マル福）に該当しない方を対象に、子どもに係る医療費の一部を取手市独自に助成しています。
- 平成30年10月には、対象年齢を18歳まで拡大し、茨城県の医療福祉費支給制度（小児マル福）では対象外となる13歳（中学生）から18歳（高校生相当年齢）までの外来医療費の一部を助成しています。

申請方法や助成額等の詳細は市のHPをご確認ください



ぬくもり医療支援事業（実績）

年度	対象年齢	受給者数(人)	医療費助成額(円)
平成29年度	小児(0歳~12歳)	535	43,523,366
	中学(13歳~15歳)	2,209	
平成30年度 (10月より18歳までに拡大)	小児(0歳~12歳)	508	53,398,978
	中学(13歳~15歳)	2,220	
	高校(16歳~18歳)	2,027	
令和元年度	小児(0歳~12歳)	530	73,049,027
	中学(13歳~15歳)	2,184	
	高校(16歳~18歳)	2,158	

ぬくもり医療費受給者証

公費負担者番号	
受給者番号	
被保険者証等の記号及び番号	
保険種別	
保険者番号	
住所	
氏名	
生年月日	年 月 日
有効期間	
交付年月日	年 月 日
発行機関名及び印	取手市

対象者へ交付している受給者証



子育て世代支援策の展開

放課後子どもクラブ室の整備

- 放課後や長期休業期間等に児童たちが安全で健やかに過ごせる拠点として、県内でも早くから放課後子どもクラブ専用建物を設置しています。
- 近年、利用児童数が一部の子どもクラブで増加しており、子どもクラブの活動場所を確保するため、令和2年度から取手東小学校の1教室をクラブ室として利用することができるようになりました。
- また、ゆめみ野地区の宅地開発に伴い児童数が増加している高井小学校の放課後子どもクラブでは、令和2年度に専用のクラブ室を新築しました。



公立小学校の利用可能教室を活用した放課後子どもクラブ



明るく広々とした室内



取手東小学校に整備された放課後子どもクラブ室

学校教育の充実



GIGAスクール環境整備事業

GIGAスクール環境整備事業

GIGAスクール構想とは、多様な子どもたちを誰1人取り残すことなく、1人ひとりの能力や適性に合った学びを全国の学校現場で持続的に提供することを目的とした国の計画です。現在、その実現を目指し、全国各地で環境整備が進められています。取手市でも、市立小中学校の児童生徒1人1台の学習者用パソコン整備を進めています。



子どもたちのパソコン画面を大型モニターで映し出して説明することもできるようになります



授業中でも子どもたちの反応を把握でき、ニーズや学習状況に応じた個別学習が可能となります



授業支援システムを使用することで、子どもたちは自分と他者の考えを比較し、話し合いながら考えを深められます

1人1台の学習用パソコンと高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちの資質・能力を確実に育成する教育ICT環境の実現を目指します。学習用パソコンを活用することで、検索サイトやソフトを利用し、教科ごとの学びを深めます。



学校教育の充実

安心できる学校環境づくり（教育総合支援センター）

取手市では、学校と教育委員会が一体となり、「取手市の新しい学校教育3つの取組（※）」の推進、いじめ防止対策、不登校の子どもへの支援に取り組んでいます。

※「新しい学校教育3つの取組」とは、令和2年4月から導入された全員担任制（チーム指導）、教育相談部会、二学期制を指します。

●子どもを見まもる 教育相談の実施

小中学校では、子ども・保護者両方からの相談をすべての教員が受け付けし、必要に応じて教育相談部会で情報共有を行います。また、心理・福祉・法律の専門家を配置した「教育総合支援センター」からの助言等も参考に、課題に対応します。



●教育総合支援センターの取り組み

スクールカウンセラー・スーパーバイザー、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置し、スクールロイヤーとの連携体制を整備しています。いじめや不登校、学習面での不安や、子どもの発達に関することなど、学校には相談しにくいような相談も受け付けています。専門家とともに、子ども・保護者の皆さんをサポートします。



学校教育の充実

学校の耐震補強・大規模改造事業

- 市立小中学校全20校の耐震化率100%を達成しました。
- 全ての普通教室及び主要な特別教室にエアコンを設置しました。
- 老朽化の著しい校舎・体育館については順次大規模改造事業をおこなっています。平成30年度には戸頭中学校校舎、令和元年度には藤代南中学校校舎・体育館の大規模改造工事を実施しました。
- 令和2年度には宮和田小学校校舎・体育館の大規模改造工事を実施しています。



改造工事後のトイレ



改造工事後の体育館



エアコン設置後の教室



学校教育の充実

学校図書館-市立図書館連携事業「ほんくる」

子どもたちと本の出会いを増やす取り組み

- 取手市では、学校図書館を市立図書館のサービス窓口として位置づけ、子どもが本と出会う機会を増やしています。児童・生徒は、校内の検索機等から市立図書館や公民館の本（蔵書約40万冊）を予約でき、学校で受け取れます。
- 全市立小中学校に学校司書を配置し、さらなる読書機会の提供に努めています。



学校から市立図書館の本を予約し受け取る「ほんくる」は、茨城県内で初めて導入されました



学校教育の充実

安心して読書を楽しむ 電子図書館・図書除菌機

安心して読書できる機会を提供

IT環境の変化や感染症拡大などの影響で、図書館に対するニーズも変化しています。取手市では来館しなくても読書を楽しめる電子図書館サービスを導入したり、館内に図書除菌機を設置し、市民の皆さんが安心して読書を楽しめる環境を提供しています。

電子図書館サービス

来館しなくても、ご自宅から、パソコンやスマートフォンで、電子書籍を借りて読むことができます。

【対象】

- インターネット環境がある方
- 有効な図書館利用カードをお持ちの方
- 市内在住・在勤・在学の方



図書除菌機



図書館の本を安心して借りていただけるように導入しました。



健康づくりの推進

取手ウェルネスプラザの運営

- 取手ウェルネスプラザは、「市民の健康づくりの推進」と「中心市街地の持続可能な活性化」を進めるための中核的な施設として、平成27年10月にオープンしました。
- 1階には多目的ホールやトレーニングジム、セミナールーム、また、3階にはキッズプレイルームなどがあり、併設の取手ウェルネスパークと合わせて毎年18万人以上の方に利用されています。
- 多目的ホールは、コンサート、講演会、美術展など様々な用途に利用されています。



様々な種類のマシンがあるトレーニングジム



様々な遊具を楽しめるキッズプレイルーム

取手
ウェルネスプラザ



400席の可動式座席を備えた多目的ホール



健康づくりの推進

ワンコイン健診・ワンコインがん検診

- 健診、がん検診が受けやすい環境づくりのため、取手市国民健康保険または後期高齢者医療制度に加入している方は、健診・がん検診がワンコインで受診できます。
- 下記の健(検)診が、1種類500円で受けられます。

特定健診
40歳以上の方

ヘルスアップ健診
18~39歳の方

胃がん検診
40歳以上の方

大腸がん検診
40歳以上の方

**前立腺がん
検診**
50歳以上の方

子宮がん検診
20歳以上の女性

乳がん検診
(超音波)
・30~40歳の女性
・41歳以上で前年度マンモグラフィを受けた方

乳がん検診
(マンモグラフィ2方向)
※2年に1回
41~49歳の女性

乳がん検診
(マンモグラフィ1方向)
※2年に1回
50歳以上の女性



健診会場の様子
(ウェルネスプラザ)



※ 社会保険加入の方の特定健診については、加入している保険組合にご確認ください。
※ 各健(検)診は広報・HP等で受診方法や内容の詳細をご確認の上、受診ください。



健康づくりの推進

健康づくりキャラクター「とりかめくん」

- 市では子どもから高齢者までが健康で幸せに暮らせるために「スマートウェルネス」のまちづくりを進めています。
- この「スマートウェルネス」を推進していくために、健康づくりキャラクター「とりかめくん」を作成しPRしています。キャラクターデザインは、市内在住のアーティスト傍嶋賢（そばしまけん）氏が行い、公募により「とりかめくん」と命名されました。
- 令和元年12月には「とりかめくん」の着ぐるみが完成し、市のイベントや健康づくり事業のPRを行っています。



「とりかめくん」と制作者の傍嶋賢氏



ラジオ体操動画を作成している様子

とりかめくんプロフィール

種族：カメ
 性格：おっとり・努力家・長寿
 衣装：取手(TORIDE)とカメ(TURTLE)の頭文字のTを入れ、ハチマキは市の花であるつつじのピンク色 甲羅はリュック。



取手市健康づくりキャラクター「とりかめくん」

健康づくりの推進

「ヘルスロード」整備でウォーキングを楽しむ

- 「いばらきヘルスロード」は茨城県からの指定を受けたウォーキングコースとして取手市内全18コースあります。
- 市街地の風景や壁画アート等取手市の魅力にふれあい、歩くことで健康増進を図ることができます。
- 案内パンフレットの作成や案内看板の設置を行い、「歩く」ためのきっかけづくりを推進しています。



市ウォーキングコース紹介



市内ヘルスロードマップ (表紙)



コース案内板



とりかんコース

環状線（とりかん）をJA茨城みなみ農産物直売所（夢とりで）を起点に一周するコース

・全長：8.3km ・所要時間：1時間52分



高齢者福祉の充実

高齢者の生活をサポート「地域包括支援センター」

地域包括支援センター運営

- 市内4箇所の地域包括支援センターは、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも健やかに安心して生活できるよう、高齢者ご本人やご家族をサポートする身近な相談窓口です。
- 主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士など各分野の専門職員が連携し、介護、医療、福祉をはじめ様々な相談に応じながら、高齢者の皆さんの地域生活をサポートします。



各地域の地域包括支援センターでは、各分野の専門職員たちが高齢者の生活をサポートしています

●市内4箇所の地域包括支援センター

- ◆はあとびあ（電話：0297-71-3210）
住所：取手市井野253
- ◆緑寿荘（電話：0297-63-4111）
住所：取手市野々井1926-2
- ◆さらの杜（電話：0297-70-2801）
住所：取手市下高井2148
- ◆藤代なごみの郷（電話：0297-70-3756）
住所：取手市櫛木1342-2



各センターの対象地域など、詳細はHPをご覧ください。



高齢者福祉の充実

地域の中の居場所づくり「お休み処」

市内2箇所の「お休み処」

高齢者の孤立感解消や閉じこもりの防止、地域コミュニティの醸成を目的に、地域住民の憩いの場として「お休み処」を開設しており、市民ボランティアの皆さんが運営しています。



井野団地内の「いこいの+TAPPINGO（たっぴーの）」



外観



内観

令和2年で開所10年を迎える「戸頭お休み処」

「お休み処」では他の利用者・スタッフとの会話や、趣味、読書など、自由に過ごしていただけます。「お休み処」での交流を通じて、地域の見守りに対する意識の向上を図ります。



生涯学習の充実とスポーツの振興

人生を豊かに送るための学習機会の提供「市民大学講座」

- 市民の皆様の高い学習意欲に応えるため、平成23年から「市民大学」を創設し、専門知識を身につけられるよう、講座内容も多様な分野に展開してきました。
- また、東京大学教授や様々な分野から専門の講師陣・研究者などをお招きし、市民大学東京大学EMP(注1)特別講座をはじめ、各種特別講座を開催しています。
- 市民大学で学ぶことによって、生涯学習の推進と生きがいの増進を図ることにつながっています。
- 令和元年度には、一般講座・東京大学EMP特別講座各5回、特別講演会など多くの講座を開催し、延べ2,200人以上の方に参加いただきました。



▲熱心に受講する皆さん

ウエルネスプラザでの講座の様子 ▶



市民大学のメニュー

- ・一般講座（5回講座）
- ・東京大学EMP(注1)特別講座（年数回）
- ・特別講座（年数回）
- ・特別講演会（専門家や著名人による1回完結型）
- ・プラチナロボットスクール

※注1：EMP（エグゼクティブ・マネジメント・プログラム）



生涯学習の充実とスポーツの振興

「ニュースポーツ」の普及

- 市民が安全・安心に気軽にスポーツに親しみ、利用しやすい施設を提供するため、既存スポーツ施設の整備・改修を行うとともに、体育協会や総合型地域スポーツクラブとの連携により、誰もが手軽に取り組める「ニュースポーツ」の普及からトップアスリートの育成までの支援を進めます。
- 令和2年度でスポーツ団体は30団体あり、スポーツ団体の加入者数は6,500人を超えています。
- 今後も更にスポーツ振興のための支援や、市民の方への普及啓発により、スポーツ団体・団員の増加を図っていきます



グラウンド・ゴルフを楽しむ



取手市民ペタンク大会の様子

◎市主催の「ニュースポーツ大会」の種目

- ・グラウンドゴルフ ・ペタンク ・ソフトバレーボール
- ・ヘルシーボール(スポーツ少年団)

◎総合型地域スポーツクラブの「ニュースポーツ」種目

- ・ラージボール卓球 ・バウンドテニス
- ・パドルテニス ・カローリング



生涯学習の充実とスポーツの振興

北浦川緑地の整備（人工芝サッカー場の開設）



整備前の北浦川緑地



バーベキュー広場



防災倉庫



整備後の人工芝サッカー場

- 平成31年4月に、取手市中田の北浦川緑地に人工芝サッカー場を開設しました。
- 近隣市町村でも希少な人工芝施設で、常に良好なコンディションが維持されたグラウンドを使用できるということで、利用者から大変好評です。
- 北浦川緑地内には他にもバーベキュー広場や大型複合遊具などもあり、幅広く利用されています。



若年層を中心とした定住支援

取手市の転入超過数の推移及び県内順位

- 急速に進む少子高齢化に歯止めをかけ、持続可能な自治体経営を続けるため、取手市では主に若年層を対象とした移住・定住促進策を積極的に展開してまいりました。これらの施策により、平成30年からは転入超過数（転入者数－転出者数）がプラスに転じ、令和2年には225人と、県内でも5位の転入超過数となりました。
- 具体的には、定住人口増加と魅力ある住環境の整備を目的とした住宅補助制度を創設し、住宅取得補助や住宅リノベーションなど、市内定住化と中古住宅の性能向上・流通促進に効果を上げています。
- 全庁的に移住定住を意識した様々な施策を展開し、シティプロモーションを進めています。

（出典：総務省 住民基本台帳人口移動報告）

	転入者数 (人)	転出者数 (人)	転入超過数(人) (転入者数－転出者数)	転入超過数 県内順位 (県内44市町村)
R2年 (2020)	3,400	3,175	225	5位
R1年 (2019)	3,287	3,103	184	5位
H30年 (2018)	3,356	3,328	28	9位
H29年 (2017)	3,253	3,259	-6	13位
H28年 (2016)	3,154	3,346	-192	27位
H27年 (2015)	3,446	3,464	-18	11位



若年層を中心とした定住支援

定住化促進「とりで住ま入る支援プラン」

取手市では定住化促進のため「とりで住ま入る支援プラン」を創設し、下記の住宅補助を行っています。（実績は令和2年3月末までの件数）

- 1) 住宅取得補助（実績347件）
- 2) 住宅リノベーション補助（実績48件）
- 3) シニア層の持ち家活用による住み替え支援補助（実績2件）



▲とりで住ま入る支援プランパンフレット

▼取手市を選んだ理由（補助利用者アンケートより）

	割合
通勤・通学に便利	26.4%
地価が希望の価格だった	26.4%
市内・近隣に親が住んでいる	21.4%
周辺の環境が良い(交通・買い物等)	17.6%
教育環境が整っている	2.2%
その他	6.0%
合計	100%

取手市公式ホームページ「とりで住ま入る（スマイル）支援プラン」▶



ゆめみ野の街並み



若年層を中心とした定住支援

取手市空家等利活用の媒介制度

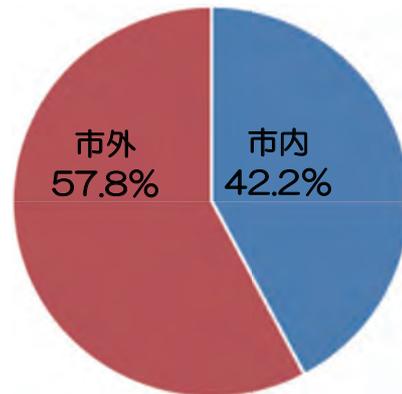
空き家を利用した定住促進施策

取手市では、令和2年度、空き家や空き地等利活用の媒介制度を開始しました。これは、市内の空き家等の所有者で賃貸や売却を希望する方に、不動産事業者（公益社団法人茨城県宅地建物取引業協会）への媒介依頼を行うことで、空き家・空き地等の利活用や流通の促進を図り、定住を促進するものです。



空き家等の利活用に向けた媒介に関する協定締結式（令和2年3月30日）

空き家等所有者アンケート（市内3住宅団地で実施） 空き家所有者の居住地



5割を超える方が市外に居住。「どの不動産事業者に依頼すればいいのかわからない」などの意見が多い。



若年層を中心とした定住支援

移住支援金「わくわく取手生活実現事業」

取手市では市内への移住・定住の促進と中小企業等の人手不足解消のために、移住支援金の支給事業を実施しています。直近10年のうち通算で5年以上かつ移住直前に連続して1年以上東京23区内に在住、または、東京圏（東京・埼玉・千葉・神奈川）在住で東京23区内に通勤していた方が対象です。

2019年6月1日以降
取手市に移住

【就業の場合】
対象の法人に就職
（「いい顔で働こう。いばらきの求人」参照）

【起業の場合】
県内で起業
（起業支援金の交付決定）

転入後3か月以上1年以内
就職後3か月以上
申請可能

転入後3か月以上1年以内
申請可能



就職希望の方
「いい顔で働こう。
いばらきの求人」



取手市公式HP
「わくわく取手
生活実現事業」



茨城移住定住
ポータルサイト



わくわく茨城生活
実現事業（県HP）



起業希望の方
（県技術革新課HP）



イメージアップ施策の推進

市民が主役のポスターを制作

- 取手市では、市民をプロモーションの主役と考え、市民をモデルに起用したポスター4種類を作成しました。
- ポスターは、JR常磐線をはじめ、東京メトロ千代田線（都内）や関東鉄道常総線の主要駅に、令和元年11月から順次掲出し、取手市のプロモーション活動を展開しました。
- さらに、シティプロモーションサイト「ほどよく絶妙とりで」では、ポスターに連動した特別ページを公開し、訴求効果の向上を目指しています。

「ほどよく絶妙とりで」サイト



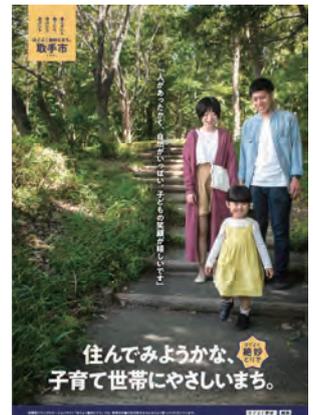
住宅取得 編



通勤 編



起業 編



子育て 編



イメージアップ施策の推進

取手市民のうた ～新しい明日（あした）～

- 市制施行50周年を迎え、新しい市民の歌「取手市民のうた～新しい明日～」を制作しました。
- 制作にあたっては、市制施行50周年への関心を高めると同時に歌への愛着心を持ってもらえるように、市民から歌詞やフレーズを募集したり、コーラスやプロモーションビデオの参加者を募るなど、市民参加型で事業を行いました。

CD盤「取手市民のうた～新しい明日～」
(表) (裏)



作詞・作曲・歌：谷本貴義
※CDを貸し出ししています



プロモーションビデオの撮影風景

HPからは「取手市民のうた」のフル音源、歌詞や楽譜をダウンロードできます



音源、歌詞、楽譜



プロモーションビデオ



イメージアップ施策の推進

芸大連携（東京芸大との交流事業）の推進

- 小中学校との文化交流事業は平成9年度に開始し、小学校へは美術指導、中学校へは音楽指導のため、学生講師を東京芸術大学から派遣していただいています。
- 令和元年度の小学校との交流は、全14小学校に延べ155人の派遣を受け、絵画指導を行っていただきました。わかりやすい指導で児童が興味をもって楽しく学習することができました。



小学生への美術（絵画）指導



中学生への音楽指導

- 芸大生によるミニコンサート（ふれあいコンサート）は平成11年度に開始し、地域の公民館、取手ウェルネスプラザ等を会場に年2回実施しています。
- 令和元年度に取手市長賞（音楽分野）が創設されたことを契機に、うち1回は市長賞受賞者による記念演奏会を開催しています。

ふれあいコンサート ▶





イメージアップ施策の推進

アートのあるまちづくり「とりでアートギャラリー」

- 東京芸術大学、JR東日本東京支社、株式会社アトレと市の4者による連携協定により、令和元年12月に文化交流施設「たいけん美じゅつ場(VIVA)」が取手駅ビル（アトレ取手）内にオープンしました。市はその中に「とりでアートギャラリー」を開設しました。
- 市内には、ほかに市民の皆様の作品展示の場として「取手駅市民ギャラリー」「藤代駅市民ギャラリー」があり、アートのあるまちづくりを進めています。

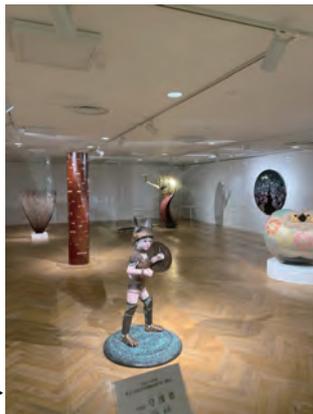


取手駅東西連絡地下道にある「取手駅市民ギャラリー」

駅ビル(アトレ取手)4階に開設した「とりでアートギャラリー」



▲ギャラリー1



ギャラリー3▶



藤代駅改札正面にある「藤代駅市民ギャラリー」



イメージアップ施策の推進

アートがあふれるまち「リング」「壁画」

- JR常磐線取手駅東口の歩道沿いには、屋外作品展示台「ストリートアートステージ」が7基あり、16作品が展示されています。展示後は2つのリング状の作品につなぎ合わされ、新たな作品として生まれ変わります。
- 平成12年度から壁画によるまちづくりを行っており、芸大、市民、行政が協力して壁画の制作、維持管理をしています。まちなかの風景に大きな壁画が溶け込み、市民が日常から芸術に触れることができます。また、落書きや張り紙がなくなり、環境改善や防犯にも大きな役割を果たしています。



「letter“醉狂”-生命の音-」
(四ツ谷橋下関東鉄道常総線擁壁)



ストリートアートステージ



2基のリング作品



「日本の四季」
(国道6号藤代大橋橋脚)



イメージアップ施策の推進

「広報とりで」をリニューアル

市制施行50周年を迎える令和2年度（4月15日号）から全面リニューアルし、読みやすく魅力ある広報紙を発行していきます。

- 全ページフルカラー化で、写真を効果的に用いた臨場感あふれる紙面になりました。
- 積極的に市民の皆さんに登場していただき、市民の顔が見える広報紙とすることで、若い世代が手に取りたくなる紙面づくりを行っています。
- 市の取り組みや課題を紹介する特集を、年12回掲載していきます。
- 左開きの横書きに統一することで、電話番号やメールアドレスなどの数字や英語が読みやすくなりました。

「広報とりで」では以下の媒体でも配信しています



リニューアルした「広報とりで」のトップページ



イメージアップ施策の推進

ご当地ナンバープレート交付

市制施行50周年記念の「ご当地ナンバープレート」

市制施行50周年の記念として、市民の郷土への愛着を深め、市の魅力を市内外へPRする一助として作成された「ご当地ナンバープレート」です。令和2年9月1日から交付が開始されています。



取手市のオリジナルナンバープレート。デザインには市の鳥や花などが使われている。

- ご当地ナンバープレートのデザインは公募され、海外からの応募も含めた177作品の中から選定されました。
- ナンバープレートには、市の花「フジ」と「ツツジ」、市の鳥「フクロウ」と「カワセミ」がそれぞれ対角線上に配置され、全体に目が行くよう工夫されています。豊かな自然と爽やかさが想起されます。
- 対象種別は原動機付自転車等です。
 - ◆白色：50cc以下
 - ◆黄色：50cc超～90cc以下
 - ◆桃色：90cc超～125cc以下
 - ◆青色：ミニカー
 - ◆緑色：小型特殊自動車



イメージアップ施策の推進

小堀の渡し「とりで号」新船就航

- 小堀（おおほり）の渡しは大正3年に運航が始まり、100年以上の歴史を有する利根川下流域唯一の渡し船です。現在では観光船として、利根川にある3つの船着場の間を運航しています。
- 令和元年度末に、30年ぶりとなる新船が就航しました。船室の上には見晴らしの良いフライングデッキを新しい設備として設けましたので、利根川の風をより楽しむことができます。

就航式の様子を動画で紹介しています



現在運航中の「とりで号」



鮮やかな船体デザインは水面に美しく輝きます



シンボルデザイン

シンボルデザインと船体色のデザインは、東京藝術大学美術学部長の日比野克彦氏が手掛けました。



イメージアップ施策の推進

利根川サイクルステーション「レンタサイクルの充実」

- JR常磐線利根川橋梁下流側の堤防上に開設している利根川サイクルステーションは、無料でレンタサイクル事業を実施しています。一般的な自転車以外にも電動アシスト付自転車、ミニヴェロ（小径車）、マウンテンバイク、タンDEM自転車などをレンタルできます。
- 建物内の一部に休憩スペースを設けたほか、空気入れや工具などを用意してありますので、サイクリング途中の休憩やメンテナンスでもご利用ください。
- 今後は小貝川に隣接する県南総合防災センターや藤代スポーツセンターのトイレや飲料用自動販売機の位置をお知らせする案内板を小貝川堤防上に設置して、サイクリングロード利用者の利便性向上を図ります。



サイクルステーション外観



レンタル可能な自転車

レンタサイクル
利用案内

